

# 山行報告書

報告書作成

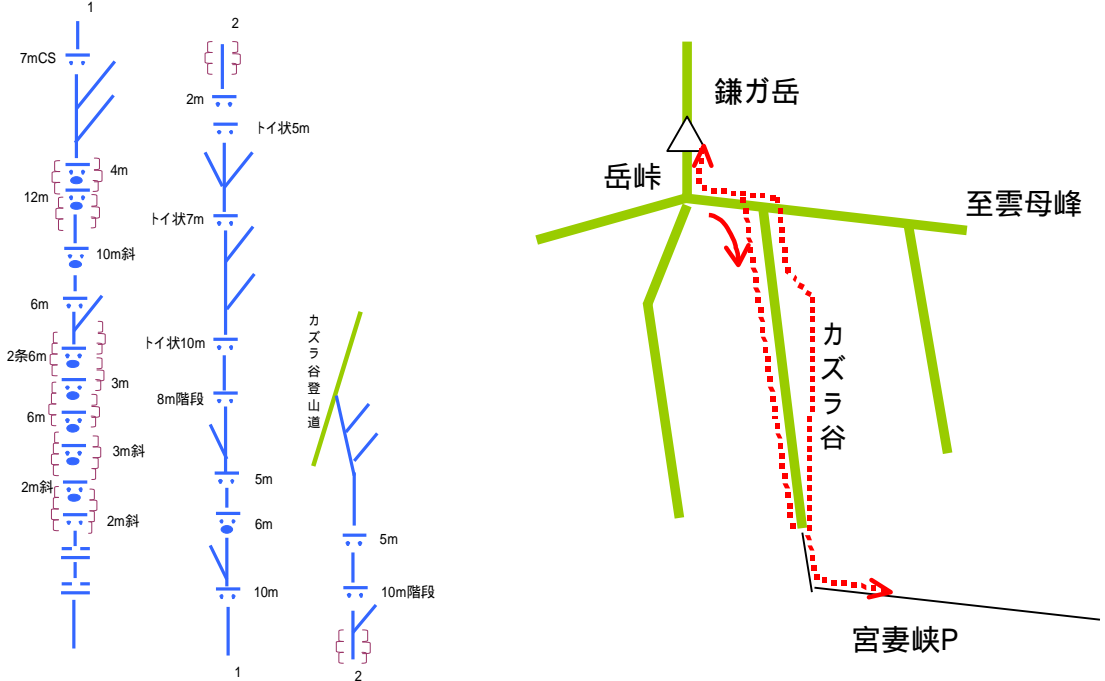
2006年10月1日

山名 [山域]	鎌ガ岳 [鈴鹿]	目的と方法	沢登り
登山期間	9月30日(土) 曇ときどき晴	山行形態	前夜発日帰り
参加人数	5名		

## 行動記録

市民センターP(2300)==豊田東IC(2310)==四日市IC(010)==宮妻峡P(040,650)--2つ目の堰堤(705)  
 --10m滝、ザイル確保(815,900)--6m滝休憩(905,920)--カズラ谷登山道(1200,1235)--鎌ガ岳(1315,1355)  
 --宮妻峡P(1545,1600)==片岡温泉(1650,1800)==四日市IC(1815)==豊田東IC(1915)==市民センターP(1925)

## 概念図



## 日誌

今シーズン最後の沢は鈴鹿の鎌ガ岳のカズラ谷だ。

宮妻峡ヒュッテ駐車場より少し上の駐車場で快適な睡眠を確保し、翌朝5時半起床。

前夜は1台もいなかった駐車場に3台ほど車がやってきた。

単独、親子連れの登山者、釣り師だ。

朝食後、沢装備を身につけ、出発。カズラ谷登山道の2つ目の堰堤を越したところから入渓する。

鈴鹿の沢の魅力はほとんどが直登できるところであろうか…。

ほとばしる水しぶきを少し浴びながらよじ登る快感はなんとも形容し難い。

ただ唯一の難点は…。

そう、あの忌まわしい生物への献血であろうか。今回もさんは首すじを…。

自分は一度も献血していないのが残念であるが、段々、相手の行動パターンがわかってきた。

落ち葉がたまったところに奴等はいるので、なるべく水線通しに歩くと、難を逃れるようだ。

あと、定期的に足回りのチェックを怠らなければ、その遡行は快適そのものだ。

9月から週2のペースでクライミングジムに通っているせいか、今まで感じていた岩場に対する恐怖感が不思議と無くなり、比較的スムーズにホールドを探せたように思う。

階段状の滝やチムニー、一枚岩の蛇行したトイ状の滝など様々な表情で我々を迎え入れてくれた。沢筋には僕の一番大好きなトリカブト(簡単で覚えやすい、形がカッコイイ)や大文字草が文字通り花を添えてくれた。

読図どおり、カズラ谷登山道へ出て、鎌ガ岳に出ると、登山者で賑わいを見せていた。

御在所岳、雨乞岳、仙ガ岳などが見え、大満足。

まだ、もう一本紅葉時に行けるかなと思った。